

課題名	ニホンザルバイオリソースにおける B ウイルス検査法の開発
課題管理者	中村 克樹 京都大学 霊長類研究所
実施期間	2018- 2019 年度
概要・実施体制	既に報告されているアカゲザル B ウイルス DNA 検出系をもとに霊長類研究所飼育アカゲザル・ニホンザルに適用できる B ウイルス DNA 検出系を確立することを第一の目的とする。
成果	<p>京都大学霊長類研究所にて飼養保管されている B ウイルス抗体陽性個体 (3 頭) を解剖し、主要臓器や神経節をサンプリングした (主要臓器 (下垂体、甲状腺、下顎腺、心臓、肺、腎臓 (左右)、肝臓、脾臓、副腎 (左右)、大腸、小腸、膵臓、胃、胸腺 (あれば)、筋組織、生殖器、リンパ節 (腋窩・腸間膜・鼠径)、座骨神経、脊髄、骨髄、全血)、各種神経節 (Trigeminal ganglion (L, R), Pterygopalatine ganglion (L, R), Ciliary ganglion (L, R), Otic ganglion (L, R), Submandibular ganglion (L, R), Geniculate ganglion (L, R), Superior cervical ganglion (L, R), Nodose ganglion (L, R), Vestibular ganglion (L, R), Spiral ganglion (L, R)) 等。これらのサンプルから DNA 抽出を行い、PCR による B ウイルス DNA の増幅に成功した。増幅したサンプルをシーケンスし、B ウイルス DNA 配列である事を確認した。得られた配列データを用い、今後、リアルタイム測定系の開発を進める。その検出系を血液・唾液・便等の飼養保管の際に採取が可能なサンプル、さらに主要臓器や神経節等に適用する予定である。</p>